

TIFA 設立 35 周年に想う

風早 寿郎

TIFA に、県議ながらも入会し、広報委員会事業委員の一員として、はや一年が経ちました。35 周年の長きに渡り、宝塚市の国際協力や地域の国際化、そして外国人市民の生活相談等に尽力されている姿をまじかに感じ、その活動の多彩さに驚いています。

現在は、在住外国人が増加する中、災害時に外国人住民も被災者となるケースが増えており、言葉や文化の違いにより必要な情報が得られず、大きな不安を抱えているとされています。

そんな対応も、今後の宝塚市国際交流協会に求められる活動かもしれません。

それには長きにわたる豊富な経験を活かし、さらなる発展を祈念します。

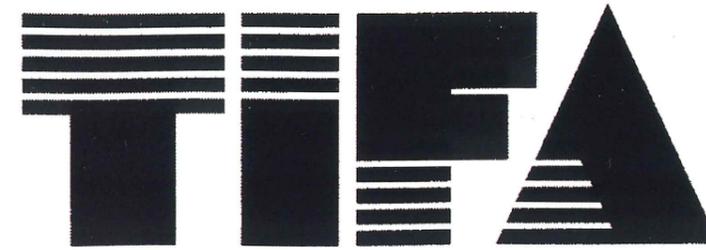
リアルに会うのが一番！

徳田 潤

台湾人の元同僚から「〇月△日と×月□日は成田空港でトランジットするけど時間はありますか？」と Facebook メッセージで連絡がありました。

こちらの元同僚と同じ企業で働いていたのもう 10 年位前で、勤務していた時期が重なっているのも 2 年弱かと思いますが、このように連絡がもらえるのは嬉しいですね！私は宝塚から仕事の関係で埼玉県和光市に単身赴任をしているので、成田空港まで 1 時間 30 分くらいです。

元同僚を成田空港で出迎え、電車で一駅の成田山参道にある鰻屋さんでビールとうな重を一緒に食べてきました。インターネットや SNS のおかげで格段にコミュニケーションは取りやすくなりましたが、リアルに会って時間と空間を共有する大切さを再認識した次第です。



Takarazuka International Friendship Association



Vol. 52 創立35周年記念号 2024

— 国際交流の今 そして未来へ —

T I F A

インフォメーション

事業のご案内

- ◎ TIFA は、6 委員会に分かれて活動しています
- ◎ 広報→隔月発行のニュースレターの監修と機関誌の発行、講演会、姉妹都市コンサートなどの開催
- ◎ 国際協力→NGO 支援、民間大使の活用。助成金の審議、学生ボランティアの活動報告会
- ◎ 交流→英語サロン、法人・団体会員懇話会、日本文化の紹介、多文化交流ひろば
- ◎ 生活相談→転入外国人オリエンテーション、フリーマーケット、生活相談、異文化料理教室
- ◎ 事業企画→外国語コミュニケーション教室、短期語学講座、名画劇場
- ◎ 日本語学習→学習支援教室、日本語チューターレッスン・クラスレッスン、外国人日本語スピーチ大会おしゃべりの会
- ◎ 事務局→翻訳・通訳事業 外国にルーツを持つ子供と親の居場所づくり、多言語化 ホストファミリー事業、文化啓発事業、オックスブリッジ交流

募集しています

- ◎新しい会員さんを募集中です。(入会金不要)。
年会費:個人 2,000 円 団体 5,000 円 法人 10,000 円
- ◎外国からのお客様を受け入れていただくためのホストファミリーを募集しています。
- ◎次回の機関誌 53 号への皆様の投稿をお待ちしています。ホームステイや海外での体験や身近な国際交流にまつわる出来事など。600 字で、どんどんお寄せ下さい。お待ちしております。

★ 編集委員 ★

奥田 啓子 加藤 啓子 風早 寿郎 杉本 和子
寺本 早苗 徳田 潤 福家 清美 福田 宏子



創立35周年記念式典&記念コンサート 2023.10.17 ホテル若水



発行者 特定非営利活動法人 宝塚市国際交流協会 (TIFA)

〒665-0011 兵庫県宝塚市南口2丁目14番1-3号 宝塚市立国際・文化センター内

Tel : 0797-76-5917 Fax : 0797-76-5918 URL : <https://www.tifa.be>

～無断転載を禁じます～

特定非営利活動法人 宝塚市国際交流協会

国際交流の今そして未来へ

宝塚市長 山崎 晴恵



宝塚市国際交流協会が創立 35 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。貴協会におかれましては、1988 年 10 月の創立から 35 年にわたり、本市の海外姉妹都市交流をはじめ様々な国際交流の促進や多文化共生の推進に取り組んでこられました。また、2008 年からは宝塚市立国際・文化センターの指定管理者として、国際交流活動の場、芸術文化の創作と発表の場である施設の管理運営を担っていただいておりますことに心より感謝申し上げます。

また、30 年前から始まった外国人市民のための生活相談や日本語学習支援に加え、外国にルーツを持つ親子の居場所づくりや、くらんど人権文化センターにおける学習支援等、外国人市民に寄り添ったきめ細かい活動を、継続してこられたことに深く敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症の収束とグローバル化の更なる進展によって、人々の国際移動が活発になり、観光、ビジネス、留学など、より一層外国人の増加が予想されます。国際交流は、国籍を越え、人種や言語・文化の壁を越え、お互いを知り、お互いを理解し、友情を深めることにより、平和な世界の実現に結びつくものです。

これまでの 35 年間、貴協会がボランティア精神により行ってこられた先進的で多種多様な交流事業は、本市における異文化相互理解の深化と地域の国際化を着実に進展させ、外国人を含めたすべての人が共に生き生きと暮らすことができる多文化共生社会の実現に大きく寄与しています。今年市制施行 70 周年を迎える本市としましては、未来に向けて、貴協会の活動が次の若い世代へ継承されるとともに、一層の発展を期待しています。

宝塚市議会議員 富川 晃太郎



宝塚市国際交流協会が、創立 35 周年を迎えられましたことに、宝塚市議会を代表して心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、創立以来、海外との姉妹都市交流のみならず、市内在住の外国人市民の生活支援や、日本語学習支援などの取り組みも積極的に進められており、国際化や、異文化に対する相互理解を深めるための様々な活動にもご尽力いただき、市民の国際交流・国際理解推進役の中心として、着実に成果を上げてこられました。その努力に對しまして、深甚なる敬意を表する次第です。

特に、コロナ禍のもと、困難な状況の外国人市民の方々に対して、丁寧な生活相談等の支援を継続して行っていただきましたことは心強く感じ、深く感謝しております。

近年は、国内企業への就職や定住を希望することを目的として留学生や技能実習生が増加し、国籍も多様化していますので、質の高い、持続可能な都市としての成長を目指すためには、「多文化共生の地域づくり」を推進していくことが必要です。外国人の方々にも、同じ宝塚市民として、協働のまちづくりの担い手になっていただくためには、貴協会のご協力がますます必要になると思います。引き続き、宝塚市の重要なパートナーとして、お力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。

宝塚市教育長 五十嵐 孝



宝塚市が世界と繋がる架け橋として、異文化相互理解を深める国際交流のみならず、在住外国人や海外に出かける方への生活相談、日本語を母語としない方への支援など、多岐にわたりご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

コロナ禍の影響で、現在オーストラリア・メルボル市と本市の中学生の国際交流推進事業は、来日という形は再開できておりませんが、以前はアップルクロス校の生徒のみならず、日本の食文化を楽しみながら学べるよう、英語で解説をしながら一緒に調理をしていただくなど、たくさんのご支援をいただいております。また、日本語の不自由な児童生徒及び保護者に対するサポーター派遣をはじめ、教育委員会の事業に対してさまざまな形でご支援、ご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

さて、昨今、外国にルーツを持った方の来日が増加する傾向にあります。また社会では、グローバル化、情報化が進み、より一層他者を理解し尊重する多様性の心を持った子どもの育成が私たちの責務となっています。宝塚の子どもたちと外国にルーツを持つ子どもたちが、よりよいつながりの中で生活していけるように、今後も国際理解教育の推進に向けその一翼を担っていただけることを切望するとともに、貴会のみならずご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

(特)宝塚市国際交流協会

創立35周年記念式典 & 記念コンサート



令和 5 年 10 月 17 日、ホテル若水鳳凰の間において創立 35 周年記念式典が行われました。奥田理事の司会で、まず当協会大世古理事長がこれまでの活動状況を報告しました。そして、令和 6 年度は、オーガスタ・リッチモンド郡姉妹都市提携 35 周年・ウィーン市第九区姉妹都市提携 30 周年の記念すべき年でもあり、その意気込みを語っていただき、TIFA が外へ向けての発信に努めると挨拶されました。

続いて、宝塚市長、議長、教育委員会学校教育部長、阪神北県民局長、HIA 専務理事からそれぞれ日頃の TIFA の

外国人支援に対してご祝辞をいただきました。

また、当協会元理事長伊藤通さんからの多額の支援への感謝を込めて表彰状とクリスタルの写真楯を贈呈いたしました。来賓を含め 72 名の出席を得て、ワインで乾杯し、無事に式典を終了いたしました。

休憩を挟んで 21 名の一般参加の方も入り、堀江ファミリーの記念コンサートが始まりました。

堀江ファミリー、長男のチェロ、次男のヴァイオリンとそれぞれのソロ演奏やアンサンブルの落ち着いた演奏と、時には激しく、また、お父様の軽快な司会進行で会場は和やかな雰囲気の中、お開きとなりました。

その後、賑やかに懇談していただき、会員同士のコミュニケーションと共に情報交換に花が咲き解散となりました。



堀江 政生 氏

堀江ファミリーコンサート

チェロ : 堀江 牧生 氏(長兄)
ヴァイオリン: 堀江 恵太 氏(次兄)
進行 : 堀江 政生 氏(父)

(こぼれ話) 演奏後、次兄の恵太さんはウィーン留学中に、姉妹都市交流で何度も宝塚で演奏に見えたマインハルト プリンツ氏がピアノの恩師だと判り、その奇遇により一層親しみが沸きました。



堀江 牧生 氏 (チェロ奏者) 1990 年生。東京音楽大学を経てモスクワ音楽院卒業、ウィーン国立音楽大学卒業後コースにて研鑽を積む。2016 年国際コンクールグランプリなど。関西フィルハーモニー、長岡京室内アンサンブルを始め、キーロフ、トリアッティ等ロシア各地のオーケストラとも共演。松方ホール音楽賞、青山財団音楽賞新人賞。2010~2012 年度ロームミュージックファンデーション奨学生。2014~2016 年度ヤマハ音楽振興会奨学生。



堀江 恵太 氏 (ヴァイオリン) 1992 年生。第 1 回吹田市貴志康一賞。横浜国際音楽コンクール一位。高槻音楽コンクール一位、高槻市長賞。ジョージア国立トビリシ音楽大学オケと、日本センチュリー交響楽団と共演。兄牧生とシンフォニア・アルシス OSAKA と三重協奏曲、ブラームスの二重協奏曲共演。京都芸大首席で卒業。ウィーン国立音楽大学修士課程。青山財団奨学生。「アーツサポート関西」助成者。関西フィルハーモニーのコンサートマスターに就任。

国際交流の今そして未来へ

多文化共生時代に向けて

TIFA 副理事長 原田 永康

私が家族と一緒に米国に赴任した時感じたのは、言葉も何もかも不自由な家族を米国は、学校などの公共サービスだけでなく、一人一人の市民個人レベルで暖かく迎え入れてくれた事です。

一方日本に帰って感じるのは、日本人は個人になると外国人に対し壁を造って敬遠し、気軽に声をかけてあげられない事です。私が思っていたより在留外国人の増加のスピードはかなり遅いですが、日本の発展のためには外国人の増加、多文化共生が不可欠だと思っています。

そこで今後注力すべきは、多文化共生時代に向けて一人一人が外国人への壁を取り払う宝塚市民の啓発ではないかと思っています。

TIFA ではこれまでも、多文化交流ひろば、外国人に日本文化紹介、英語サロンや民間大使の派遣事業等で多文化相互理解事業を展開してきましたが、もっと外国人と気軽に友達になれる関係を作れる様な事業を拡充していきたいと思っています。

そこで今後の事業として次のような事を考えています。

1. 地域コミュニティとの連携事業：大学・高校や自治体の国際協力に関心のある若者と連携して国際協力の輪を拡げていく。
2. 外国人と市民の触れ合い：多文化交流ひろば、英語サロンや日本文化紹介の従来事業に加えて、民間大使を活用した触れ合いの場を提供する事業を拡大する。
3. TIFA 活動の市民への認知度拡大：国際フェスタの様なお祭りで TIFA の認知度を上げる。

一朝一夕には難しいと思われませんが、国際都市宝塚にふさわしい多文化共生社会への一助となる様に努力していきたいと思っています。

二つの姉妹都市が 宝塚市にもたらした財産 そしてこれから

TIFA 副理事長 加藤 啓子

宝塚市の初めての海外の姉妹都市は 1989(平成元年) 4月3日、アメリカ合衆国、ジョージア州の北端、オーガスタ市、次に1994年(平成6年) 10月18日、オーストリア共和国ウィーン市の北西部ウィーン市第九区(通称、アルザーグルント)と提携しました。

当時、各市町村で国際化を謡って海外との姉妹都市提携が盛んに行われていた時代でした。

宝塚市では「21世紀に向けて市民が広げる国際交流の輪」の基、1988年(昭和63年)10月17日に宝塚市国際交流協会が設立されました。

設立に当たって、多くの体験豊富な会員、関心の深い会員が集められた35年前でした。記念すべき創立35周年を迎えるに当たって、設立された意義、内なる国際化の活動を続けることが2つの姉妹都市が宝塚市にもたらした本来の財産となると考えています。

TIFA の果たす役割は

TIFA 会計理事 木原 正宣

未来に向かって TIFA に求められていること「ボランティア体制がいつまで続くのか」ボランティア活動とは、外来言葉だが、なかなかその内容を一律に判断するのは難しいと思う。

一般的には、非営利の目的で、人々と社会のために活動することと解される。私達は、民主主義と自由主義の社会システムの中で生活している。この社会システムでは、企業と個人は法律に反しないかぎり、自由な発想で活動できる。TIFA はそのような環境のもと、どういう役割を果たすべきか。

TIFA 会員には、それぞれの想いがあると思われるが、特に外国人を対象に活動することを目的とすれば、対象とする外国人にもさまざまな人たちがいる。

この国で幸福な生活を営んでおられる人達もいるし、また、そうでない人たちもおられる。

できれば、いろいろな困難に立ち向かいながらも、あえてこの国で生活しておられる人たちの力強い味方になれば、ボランティア活動の意義もより大きなものになると考えている。

世界を俯瞰して

TIFA 理事 広報委員長 福家 清美

令和6年は、能登の大地震であけました。まだまだゆき先のみえないロシアによるウクライナへの軍事侵攻がつづいています。中東ではパレスティナとイスラエルとの間で2000年もの長い間、激しくて無残な中東戦争が果てしなく繰り返されています。

そして世界各国では、台湾、欧州連合(EU)、ロシアそして秋にはアメリカなどで大統領選挙が待っています、まさに選挙イヤーです。国際交流に携わる人間としては、世界の動きを知って行動することが大切のように思っています。

そのために、広報委員会では年に3回、国際理解講演会を開いています。今年は、創立35周年行事の一環として、ウクライナに造詣の深い岡部芳彦氏、オーストリア在住でオーストリア国家公認ガイドのイップ常子氏、そして神戸新聞社初の女性取締役の西海恵都子氏をお迎えしました。

年に一回ですが、TIFA 行事を総括する機関誌を発行しております。



交流委員会の取り組みから

TIFA 理事 交流委員長 森崎 妙子

日常生活の中に外国人がいることがごく普通になった昨今でも、外国人との相互理解ができていくかという点で決して十分な状況ではないと思います。その中で日々の TIFA の活動は、共生社会の実現という目指すゴールは同じですがそれぞれの委員会で切り口が少しずつ違っているのだと思います。いわば同じ頂上をめざしてそれぞれ違う道を登っていると言えいいのでしょうか。

交流委員会では一般市民と外国人市民との相互理解を深める事業として、日本人を主な対象に「多文化交流ひろば」という事業を、外国人対象には「日本文化を楽しむ会」をそれぞれ年に数回開催しています。

委員会単位が主になっている TIFA の活動ですが、目指すゴールは同じ、委員会ごとの活動をより積極的に進めていくことももちろん大切なことですが、委員会の枠を超えて一丸となった取り組みもできる体制を構築していくことが TIFA の明るい未来のために必要ではないかと思っています。

～日本人も多民族の一人～

ONE OF THEM

TIFA 理事 国際協力委員長 藤本 由利子

皆様、TIFA への入会にどんなイメージを以て入会されたのでしょうか？ 私のイメージは多民族の人がフロアーを行きかい、集い談笑！ところがどうでしょう？(日本語レッスンの外国人は別) シニア世代(私も含め)が澁澁として闊歩！組織の顔の受付もシニア。

外国人はいずこに？

そもそも外国人とは一体どんな人でしょう？

日本人とは大和民族。それ以外は外国人と。たとえ日本国籍を持っていたとしても外国人扱い。TIFA では外国人という塊と日本人の塊と2極化。又、国とは国家とはどういう人達で構成されているのでしょうか？

日本では一般的に単一大和民族だけで。でも、英国では首相もロンドン市長もインド系ヒンズー教徒。今や欧米の国家は多民族・多人種等で構成。

では想像していたイメージにするにはどうすればいいのでしょうか？

日本人外国人という概念を払拭すべきでは？日本人も多民族の一つと ONE OF THEM。又受付には多民族の人を。専属でなくとも日替わりでも。

TIFA に来れば同じ環境の人がいるという共通認識から会話も生まれ緊張感も解れ、集いの場とならないでしょうか。あくまで日本人は仲人。日本人が主役になって外国人と親密になろうとすれば、それは外国人同士の壁となって立ちばだかってしまうのでは？

40周年に向け、一度国際交流協会のイメージ論を語り合いませんか？と同時に、他民族の人の TIFA への声も聞いてみませんか？そこから NEW TIFA が！！

国際交流の今、そして未来へ

TIFA 理事 生活相談委員長 加藤 正芳

宝塚市在住・在勤・在学の外国人からの日本での生活に関する相談を受けています。外国人の増加につれ、相談の内容も多岐に亘るが、特に子供の教育・医療・働き口・年金等に関わるものが多く、これらは人間として生活する上で必須の物で、今後、この分野で相談にしっかりと応えられるよう注力していく。

まず、外国人が日常生活をするうえで、支障のないよういろいろの機会を通じてオリエンテーションの実施を強化する。具体的には、ごみ

の出し方、交通法規の遵守、消防署への連絡などである。

異文化相互理解として、外国人同士の交流が大切で、外国料理教室の開催、外国人支援のフリーマーケット・フードシェアリング（食品・日用品）の実施、バーベキュー大会等を行っている。これらの活動には日本人も大いに関与しており、外国人と日本人との大切な接触の場である。今後は、外国人が主体となり、日本人は脇役に徹するように持っていきたい

多文化共生の現場

TIFA 理事 日本語学習委員長 奥田 啓子

最近、契約社員として日本の企業で働いていた多数の学習者に起こった事案だが、契約会社などの都合で、突然契約を打ち切れ帰国を余儀なくされたり、遠くの企業に転職したり、一瞬で生活の変化に戸惑う場面に出会った。労働者としての権利は守られていたのだろうかとか遠くで見守るしかなかった。

TIFA で日本語支援を始めてから 30 年、国際交流、異文化理解、多文化共生、そして多様性の受容と日本と外国人を取り巻く社会は変化してきている。異質なものを理解し、また異質なものを理解してもらうことで社会にもたらすメリットは目に見えて来にくい。

しかしながら、地域経済を支え活力をもたらす一員として定住外国人が多くの現場で貢献していることを忘れてはならない。日本語学習支援は常にホスト社会の共生が試される現場でもある。お互いが主体的になり、国籍や文化、信仰などの違いに関わらず、何かあれば自然とお互いに手を差し伸べ合える地域になることを期待して我々日本語ボランティアは日々活動しています。



TIFA 創立 35 年に想う

宝塚ベトナム友好協会
会長 野田 一三

草創期

TIFA の母体は 1987 年に設置された宝塚市国際交流懇話会です。これは宝塚市内の国際的事業や活動をする法人、団体、個人により構成されたものでした。この懇話会の提言により、翌年の 1988 年 10 月に市民団として宝塚市国際交流協会 TIFA が誕生しました。発足当時は事務局が市役所内に置かれ、先述の国際交流懇話会の多くの委員が理事に就かれました。会員数は、法人、団体、個人を合わせると、500 名以上でした。

この草創期に活動を始めたのは編集委員会です。後に広報委員会と改称され今日まで続く TIFA で最も長い活動歴をもつ委員会となっています。主に TIFA の活動記録や今後のビジョンを会員に伝え共有し、心を合わせることに力を注がれました。

草創期の理事や編集委員会のみなさんは、建物に例えれば、地ならしと基礎を創って次へのステップを拓く役割を果たされました。

成長期

次のステップへの節目は、1993 年 4 月の市立国際・文化センター開設並びに 1995 年 1 月の阪神・淡路大震災の発生です。この時点で TIFA の会員数は半減し、さらに減少（退会？会費未納？）が続いている様相でした。原因を調べてみると、大凡 2 つありました。会員になられた方は、「TIFA でしたい」ことや「TIFA にしてもらいたい」ことを期待していたのですが、TIFA はそれに応えられていなかったのです。そのため、創立時の機運が衰え熱意が冷めていく状況でした。

国際・文化センターという活動の拠点を得たことにより、会員による自主的な運営ができる環境が整ったところでした。そこで市民のニーズと会員の期待に応えるべく、（異文化間）生活相談委員会、日本語学習委員会などが設置されたのです。

生活相談委員会の構成については、KIDS の会結成時のメンバーである加藤啓子さんなどが健在であり、この KIDS の会が委員会の中核となりました。こうして相談事業を発足することができました。TIFA が成長してきたのは、細やかな生活相談を実施し、宝塚市の地域社会にその存在価値を確立してきたからに他なりません。

日本語学習委員会も、幸いにも太田純子さんや奥田啓子さんなど優れた日本語教育の先駆者に恵まれました。市内在住・在勤・在学外国人に日本語や日本の生活習慣を教えるとともに、日本語の教育の指導者育成と日本語学習形式の確立に尽力されました。日本語の不自由な外国人にとっては、日本語でコミュニケーションができれば、生活上の問題やストレスがほぼ解消されるようです。TIFA のアットホームな日本語学習事業は、欠くことのできない存在として連綿と受け継がれてきています。

充実期

2005 年に NPO 法人になった TIFA は、外国にルーツを持つ子どものための学習支援「ST ワールド」の実施や LINE を利用しての触れ合いの機会拡充、WEB サイトで外国人のために情報アクセス支援のように ICT ツールを活用するなど充実期にあります。

今日の TIFA は、創立から絶え間ない会員のみなさんの精励が成し得たものです。さらに活動の拠点となる市立国際・文化センターを開設した宝塚市行政並びに活動を支える有能な事務局の存在によるところが大きいものがあります。創立 50 周年の TIFA の姿は如何なものでしょうか？

創立 35 周年に際し、初代会長・岩堀通夫氏、第二代会長・武田直哉氏、第三代会長・森脇洋子氏を始めとする関係者の方々に、敬意と感謝と懐かしさを覚えます。

市民と共に歩んだ海外交流のかずかず



TIFA だからこそ経験する今なお、懐かしく、



思い出深い国際交流です。その数々を皆さんに語って頂きました。

1989年、

友金市長(当時)の時に、宝塚市が初めて姉妹都市提携を結びに、オーガスタ市を訪問しました。お土産の陶器の置物を秘書であった坊さん(当時)が持参した時、飛行機の狭い座席で窮屈したこと、また街全体に花が咲き競う自然豊かな庭園都市オーガスタに位置する有名なマスターズゴルフ場は、あまりにも緑の芝生が素晴らしくて、靴を履いたまま歩くにはとまどいを感じたそうです。

1996年、正司市長(当時)が、アトランタオリンピックの年に、スポーツに関わる宝塚市民170人で訪れて、市民同士でゴルフ、卓球、野球、庭球、ウォーキングなどを楽しみました。国際交流は、一般的には行政が主体となりますが、できるだけたくさんの市民が参加して交流の楽しみを味わってほしいと願ったからだそうです。



正司市長(当時)は、音楽の街、宝塚の市民が誇りに思う最も素晴らしい都市は…と考えて音楽の都ウィーン、しかも名高いオペレッタの歌劇場フォルクスオーパがある9区との姉妹都市提携を決めたのが、1994年、日唄125周年の年でした。日本の文化の紹介ということで、十二単、花嫁衣裳、七・五・三などの数々の衣装で

す。五歳の羽織、袴をまとったのが、国立オーストリア音楽大学教授のプリント夫妻の子息シモン君でした。あれから15回近く、宝塚ホテルでファミリーコンサートを開いています。

1993年、救急車と消防車を元市議会議員の大庭さんと吉岡さん、時には福家も運転して、インドのカルカッタからネパールのカトマンズへ搬送。一行は、インド国内に点在する仏陀の遺跡を巡り、またサッカーボールを小学校に寄贈したり、カルカッタでは、マザーテレサの修道院、象さんがのうのうと暮らしている動物園へ、またカトマンズの王宮では、王様に謁見して感動したこと、皆さんが一番印象に残っているのはネパールだそうです。

2001年、

ベトナムと宝塚ベトナム友好協会との提携。ベトナム国民が敬愛するホーチミン氏の等身大肖像陶板をホーチミン記念館に持参した贈呈式、この陶板が大きく大変重かったと述懐する大庭さん。宝塚ベトナム友好協会は現在に至るまで、ベトナムの語学研修や歴史の勉強を続けていて、今秋もベトナムを訪問します。資源もない小さな島国の日本が、国際社会の中で生き残っていくには、「日本が好き」という外国人をたくさん作る必要がありますと、今日参加された皆様の感想です。(広報委員会)



2001年、ベトナムと宝塚ベトナム友好協会との提携。

ベトナム国民が敬愛するホーチミン氏の等身大肖像陶板をホーチミン記念館に持参した贈呈式、この陶板が大きく大変重かったと述懐する大庭さん。

宝塚ベトナム友好協会は現在に至るまで、ベトナムの語学研修や歴史の勉強を続けていて、今秋もベトナムを訪問します。

資源もない小さな島国の日本が、国際社会の中で生き残っていくには、「日本が好き」という外国人をたくさん作る必要がありますと、今日参加された皆様の感想です。(広報委員会)



令和5年度TIFA定時総会(第19回)

2023年5月29日、令和5年度宝塚市国際交流協会第19回定時総会が宝塚市立国際・文化センターギャラリーにおいて、福家理事の司会で13時30分から3時30分まで開催されました。参加者は約90名。

大世古健治理事長の挨拶に続き、来賓のご挨拶をいただいて、議長が選任されました。恒例の定足数の確認が済み、議事録署名2名が選任されて、議案審議に入ります。

前もって会員に郵送されている総会議案書にのっとり、議案1号である令和4年度事業報告が大世古理事長から、そして木原会計理事から決算が報告されて承認されました。

ひき続いて第2号議案 令和5年度の事業計画及び予算に関する事項が上程されて承認されました。

今年度は、定款変更に関する第3号議案が審議されて、すべて承認されました。

本日出席している新入会員が紹介されて小休止の後、お楽しみのコンサートです。稲岡 大介氏によるハンマードルシマー演奏。チェンバロに似たどこかやさしげな響きを堪能しました。

【プログラム】

ドンドリーの歌(アイルランド民謡)
グリーンスリーブズ(イングランド民謡)
アルハンブラの思い出(タレガ)
戦場のメリークリスマス(坂本龍一)
ミズウミノホトリ(稲岡大介) など

稲岡 大介さん

アイルランド音楽、クラシック、日本の叙情曲、オリジナル曲などジャンルを越えた演奏活動を行う関西屈指のダルシマー奏者



TIFAと法人・団体会員懇話会

2024年3月4日、宝塚市立国際・文化センターギャラリーにおいてTIFAと法人・団体会員懇話会が行われました。藤本由利子理事の司会のもと、大世古理事長がこれまでの活動状況と、令和6年度は、宝塚市政70周年に当たり、TIFAも設立35周年でもあり、またオーガスタ・リッチモンド郡姉妹都市提携35周年、ウィーン市第九区姉妹都市提携30周年の記念すべき年でもあり、TIFAが外へ向けての発信に努める年であると強調されました。

続いて、宝塚市副市長、教育長、阪神北県民局長、HIA理事長から、日頃のTIFAの外国人支援に対してのご祝辞をいただきました。続いて、各法人・団体会員さんを3枚のスライドで紹介の後、原田副理事長からTIFA活動を紹介しました。

関西学院大学と、宝塚市文化財団により、それぞれの団体活動状況を15分間パワーポイントで説明がありました。

休憩を挟んで、新疆ウイグル自治区「シルクロード・ローラン歌舞団」所属ジャミラさんのダンスと歌が賑やかに始まり、参加者有志も、ともに踊り舞い、賑やかに懇談して、会員同士のコミュニケーションと情報交換に花が咲き解散となりました。参加者48名、会場の春らしい飾り付けは石原美生子さんでした。



シルクロード・ローラン歌舞団とジャミラさん

シルクロード・ローラン歌舞団のメンバーは新疆ウイグル自治区に伝わるウイグル伝統舞踊をはじめ、当自治区の少数民族舞踊や中央アジアのダンスを演じます。団長のジャミラ、ウライム氏は2003年留学生として来日、現在、舞踊家、歌手、モデルとして活躍中。

異文化相互理解事業

料理教室

1月21日、ピピアめふ キッチンスタジオにおいて、久しぶりの異文化相互理解事業の一環である料理教室「韓国料理講習会」が開催されました。参加者は31名、一般市民が25名で生活相談委員会のスタッフ5名がお手伝いをしました。

宝塚市広報に掲載した受付日に申込者が満員になりました。コロナ禍で講習会が出来ず、待ち望んでくださったことがよく分かりました。その後キャンセルがでて心配しましたが、事務局や生活相談委員会の協力で受講者全員が揃いました。

メニューは参鶏湯(サムゲタン) チジミ(玉子チジミ) トゥブチョリム(豆腐蒸し焼き)、そしてデザートお茶と とても健康的!

講師の黄 恵子(ファン ヘジャ)氏が意欲的に取り組んでくださり、ボリュームもあるメニューに、参加者は調理を楽しみ、味を楽しみ、食べきれないお料理はお土産に、とても満足して帰られました。中には、次の料理講習会の開催予定を尋ねられる方々もおられ、楽しみにしてくださっているのを嬉しく思いました。(生活相談委員会)



講演会

毎年恒例の「異文化相互理解事業」講演会が去る3月2日市立国際・文化センター会場で開かれた。講師は、宝塚市小林の平林寺塔頭 西光院名誉住職、佐々木基文さん。元教師の経歴をもつ佐々木さんは、宝塚中学校在勤中、すぐ近くにありながら全く行き来がなかった美座の朝鮮初級学校との交流を始め、互いを知り理解し合うこと、草の根交流の大切さを生徒たちとともに身をもって体験された。

以来、「たからづか民族まつり」、「日朝友好小中学生のつどい」、「朝鮮学校を支援する宝塚市民の会」が毎年宝塚で開催する「神戸朝鮮高級学校吹奏楽部コンサート」など草の根交流に深くかかわり、映像や多くの資料を使って交流の足跡を紹介された。また「余部架橋工区招魂碑」や宝塚市武田尾の追碑「越鳥南枝」なども紹介、日韓朝の負の歴史についても触れられた。

過去を知り、それを乗り越え、未来に向かって相互理解の可能性を開いていく子供たち。その純粋な心に寄り添い、未来を担う彼らの背中を押してこられた教育者であり、宗教家佐々木氏の懐深く温かなお人柄がお話の端々からにじみ出る講演だった。佐々木氏の教えを受けた生徒さんたちは、今、違いを認め尊重しあう「共に生きる社会」の頼もしい担い手になっておられることだろう。(宝塚市外国人市民文化交流協会)

異文化相互理解事業とは

宝塚市・TIFA・宝塚市外国人市民文化交流協会の3者が共催で行う、①料理教室、②講演会、③語学講座、④出会いの場、⑤外国人日本語スピーチ大会の5事業です。その趣旨は、お互いの文化の違いを認め合い、同じ人間として相手の立場を尊重しあえる地域社会を生きていくための相互理解の確立を目指し、市民が身近な交流や学習活動を通じ、異文化や歴史を正しく認識し広い視野と高い人権意識を持つことができるよう、国際理解を深めるための事業です。

語学講座

2023年度 宝塚市異文化相互理解事業-語学講座-

タイ語・韓国語 受講生募集

語学を学ぶことで異文化を理解する「異文化相互理解事業」です。今年度は、初心者から中級者まで幅広く受講生を募集します。また、タイ語・韓国語の両方を受講できる講座も用意しています。受講料は受講料のみで、教材費は別途です。

講座名: 「タイ語から始めるタイ語」→タイ語を楽しく学ぶ講座
講師: 伊藤アツシ(アツシ)さん

講座名: 「韓国語から始める韓国語」→韓国語を楽しく学ぶ講座
講師: 金 英子(イム・ヨン)さん

開講日: 2023年10/21(土)~12/16(土) 13:30~14:30 6回(少人数)

レッスン時間(毎週土曜日): 土曜日 13:30~14:30 教習費 33,000円(税込)

受講料: 14名(先着順) 受付は10/21(土)から ※定員を超えた場合は抽選となります。

受講料: 3,000円(受講料のみ、教材代別)

申込: (特)宝塚市国際交流協会(TIFA)
〒565-0811 宝塚市南門2丁目4-1-3 サカサキビル3F
TEL: 0787-76-5918
FAX: 0787-76-5918
Eメール: tifa@tifa.or.jp
HP: https://www.tifa.or.jp

主催: (特)宝塚市国際交流協会(TIFA)

であいの場

2023年度 新しい船出・・・
「啓発展」から「であいの場」に



2023年度、異文化相互理解事業のこれまでの「啓発展」の名称を変更しました。昨年、担当を引き受けた時から「啓発」という言葉に違和感を持っていたもので、とにかく(私自身も含め)みんな知らないことだらけなので、一緒に出会って知っていこうという狙いで「であいの場」という名称に落ち着いた次第です。

会場では、昨年のパネル、韓国家具・衣装・ポジャギ、「ピースマスク」に加え、ワークショップと韓国茶礼、イベントではバイオリン演奏、K-ポップダンス、バトンをそれぞれ休日に披露してもらいました。感想は割愛しますが、好評でした。ともあれ、参加者の感想を拾ってみましょう。

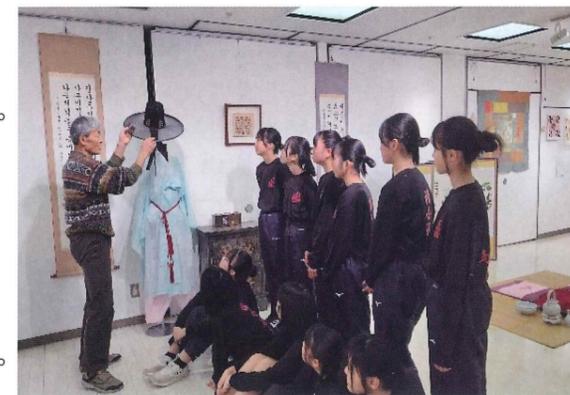
- ☆ 「外国籍の人のグラフの+説明を聞きながら見て、知らない事もあって勉強になりました。」(10代)
- ☆ 「すごくわかりやすく学びになりました。」(10代)
- ☆ 「外国の方が身近な宝塚市にこれほど関わりがあると思いませんでした。こういった歴史に関する学びは、とても今後の両国の関係に影響するものだと思います。こうした場をもっと設けるべきだと思いました。」(20代)
- ☆ 「チラシを見たときは「難しそう」と思いましたが、創氏改名などわかりやすく勉強になりました。なぜこのようなことをしなければならなかったのか、当時の人の気持ちを考えると胸が痛みました。ハングルの成り立ち、面白かったです。K-ポップアイドルのハングル表記など、親しみが持てました。作品展示もあり、たのしめました。」(30代)
- ☆ 「概要や作品の展示など、さまざまな視点で文化に触れることができました。また展示だけではわからないことも説明いただけ、深く関わることができました。」(30代)
- ☆ 「ポイントがしぼられていて分かりやすかった。朝鮮籍と韓国籍の違いなど理解が深まった。」(40代)
- ☆ 「初めて見させていただくものばかりで興味深かったです。」(50代)
- ☆ 「説明をして頂けたのでよく理解できました。ポジャギの作品がステキでした。」(60代)

<であいの場>でこれまで知らなかった異文化に遭遇された感想でした。最後にK-ポップダンスに出演してくれた中学生が

☆ 「日本に住んでいる外国籍の人の現状がわかり、もっと知りたいなと興味がわきました。興味がわく人がたくさんでと思うので、とても良い取り組みだと思いました。」と書いていました。

この街で育ちこれから生きていく若者たちが<興味>を抱いてくれた、そして、たまたまイベントに参加してくれたことを契機として「であいの場」について、今後の希望を語ってくれたのではないだろうか。ともあれ、この事業を支えて下さった多くの関係者の方々に感謝しつつ筆をおきたいと思います。

(宝塚市外国人市民文化交流協会 本田 芳孝)



第27回宝塚市外国人日本語スピーチ大会

2023年12月19日(土)に宝塚市、(特)宝塚市国際交流協会、宝塚市外国人市民文化交流協会



主催で外国人日本語スピーチ大会が開催されました。出場者はチェウナ(韓国), ヨウ セキシ(中国), サカグチ ヤンヤン(香港), チョウ キンカ(中国), グェン ヒュー コン(ベトナム)の五人の皆さんと提言の郭政義(韓国カクチョンイ)氏です。タイトルは「韓国と日本の女性人権向上のための動き」, 「小学校四年生の虫対戦」, 「知らない街を歩く楽しみ」, 「本当のしあわせ」とは, 「戦争と平和」と、バラエティに富み、少人数ながら、内容の充実した大会となりました。(日本語学習委員会)



スピーチ大会賞

「本当のしあわせ」とは



私は C.K です。中国からきました。14 年前に結婚して日本にきました。来た時は全く日本語ができませんでした。それで 1 年半くらい日本語を勉強 しました。少し日本語がわかるようになったのでヘルパー2 級課程の講座を 3 か月受けにいきました。大変でしたが技術を習得して無事に仕事を始めました。言葉が上手く言えなくても接する時表情で気持ちは伝わるので介護は楽しい仕事だと思いました。

この楽しい職場で私はいろんな日本語を覚えました、わからない言葉は必ずノートに書いてお年寄に聞きました。お年寄はみんな私の日本語の先生でした。

幸せとは何でしょう、どう生きていたら幸せを感じるでしょうか。介護の仕事をしていて本当の幸せとはなにかを考えさせられます。老人は家族と一緒に生活するのが一番幸せじゃないかと思います。中国では子供や孫三代同居している人が多いです。それに犬や猫などの動物と加わりぎやかに生活しています。近所の人との付き合いも大切にしています。日本では核家族で生活している人が多いです。自分の生活を守ることが大切です。でも年を取ってからの孤独はとても不安です。

若い人は老人に何かできる事があるのではないのでしょうか。これからはそれぞれ自分に合う本当の幸せが手に入るようにがんばりましょう。(C.K さん 要約版)

提言



「物の交流から人の交流へ」

郭政義(韓国 カクチョンイ)

私は 1953 年に生まれました。私の親は 1917 年にきました。日本に来てかれこれ 105 年です。親はプラスチック成形業という町工場の仕事をしていました。私はそれがいやで、こんな仕事はやめたいと思ったのです。ほとんどの 1 世たちは学校に行かずにはいましたが、2 世の私の場合は日本の学校へ入学しました。小学校から日本の名前を使っていたけども、当時は国籍による差別もいろいろありました。私は韓国人だから、やはりルーツを持たないと人間としておかしいと感じて、高校に入る時に、名前は韓国の名前にしました。15 歳から始まったのは、自分の国や自分に対する学ぼうとする積極的な姿勢です。それから、韓国の大学へ行って韓国語を教える機関に入りました。残念ながらいろいろあって 1 年で戻ってきました。それから、一度だけ韓国国籍でも教員になれるよという一瞬の隙間が開いたのです。その時に教員になろうと免許を取りました。3 年かかりました。免許を取って教員試験を受けたのですが、もう門が開いていたのです。残ったのは免許状だけです。

それまでに歴史的な背景があった民族学校というのがありました。戦後すぐに韓国人・朝鮮人が民族学校を作って言葉や歴史を教えようということのできた学校です。しかし、残念ながらつぶされました。代わりに日本の学校で週に 1~3 時間課外で言葉や歴史を教える民族学級ができました。その後、民族学級はなくなりましたので、夜間中学校の先生になりました。大阪の夜間中学校の 5 割以上は韓国・朝鮮人です。その人たちは文字を知りません。8 年勤めました。それから 65 歳の時にもう一度若い時に行けなかった済州大学の方に 3 年ほど留学し、この前帰って来ました。

今日お話をするのは、日本に住む先輩の外国人として、この社会に対して望むことです。多文化交流とか、多文化社会とかよく聞きますが、その中で多文化を作っているのは誰だと言えば民族です。だから、多文化社会の規定をなすのは多民族社会だと思います。私が住んでから 70 年です。望みはこの社会が良くなってほしいということです。こんないい国はないと思います。風景はきれいだし、私も韓国に 3 年程おりましたけれど、やっぱり日本が恋しいです。しかし日本の社会がもっと外に開いてほしい。そして外から来る人に対等にやってほしいということです。

これからの社会は間違いなく地球自体が危なくなります。共存社会に自らの知恵が試されています。これからどういう社会を創るのかです。やっぱり人です。物が来て変わるわけじゃない。お好み焼きを食べてうまい、餃子を食べたおいしいですが、それを作ったオリジナルの人たちはどう生き抜いているのかということを知ることによって、また違う創造性が生かされるのではないかと思います。私はこれから、多文化社会ではなく、その料理のものは何だったのかという多民族社会になってほしいのです。

具体的な提案を二つします。今日の会場の外国人は新しい外国人です。私のような古い外国人もこの場に来て、皆さんに長い間日本の社会を見てきた話を聞いてほしいです。さらに、宝塚で多文化、多民族のフェスティバルをやしてほしいです。いろいろ違ってみんないい社会を広げてほしいと願っています。(音声採録版を要約編集)



ミニコンサート
パラグアイハーブ 野中みさえさん
ギター/クワトロ 野中 一弘さん

第27回宝塚市外国人 日本語スピーチ大会 出場者のコメント

Y.S さん (中国)

人前で何かを言うのは、すごくきんちょうしました。でも、最後にゆうしょうだったから、落ち着いた。

S.Y さん (香港)

人前で日本語のスピーチをすることが初めてだった。とても緊張しました。目の前に審判員達と観客が座っていて上手く話せなくなりました。

難しい挑戦でしたが、やり遂げることができたことに本当に達成感を感じてました。

C.K さん (中国) (スピーチ大会賞)

想像以上緊張して、体がふるえていました。とてもいい経験になりました。みんなのスピーチはわかりやすくとてもスバラシイです。



大会終了後の交流会

G.H.C さん (ベトナム)

本日、スピーチ大会を開き頂き、ありがとうございました。

日本国だけではなく海外でも TIFA の活躍していることに対して、皆は知っているように期待いたします。

C.U さん (韓国)

自分が言いたいことばを言えてよかったです。たくさん緊張してたんですが、良い雰囲気で大大会が進んで安心しました。あたたかい目で見てくださってありがとうございました。

スピーチ大会の参加は初めてだったので、テーマをえらぶのもむずかしかったし、どうやって自然に発表できるのかたくさん悩んでました。用意(じゅんび)したとおり発表したと思って満足しました。

他の発表者の発表を聞いて、なみだが出たり、感動したりしました。良い経験でした。ありがとうございました。

TIFA 創立 35 周年記念 国際理解講演会

第1回「本当のウクライナー過去・現在・未来」 岡部 芳彦氏

国際理解講演会
「本当のウクライナー過去・現在・未来」
 講師：岡部 芳彦氏

“大学教授でありコメンテーターとして、数々のテレビ番組などに出演、日本におけるウクライナ研究の第一人者である岡部氏から、直近のウクライナの状況と今後の展開を見据え、我々が出来る事は何かを考えます”

13:30～◆開場
 14:00～◆開会
 14:10～◆講演会
 ◆質疑応答

2023年10月5日(木)
 会場：宝塚市立文化施設
 ベガ・ホール
 宝塚市清荒神1丁目2-18
 (阪急清荒神駅下車すぐ)

プロフィール
 1973年9月9日、兵庫県生まれ。
 神戸学院大学経済学部教授
 博士(歴史学) 博士(経済学)
 神戸学院大学国際交流センター所長
 ウクライナ研究会(国際ウクライナ学会日本支部) 会長
 ウクライナ国立農業科学アカデミー外国人会員
 ウクライナ大統領府国家行政アカデミー名誉教授
 ニジニヴゴロド国立言語大学名誉教授

著書
 ・2023年『Yahoo!ニュースが認めた細かすぎる公式コメントをさらに細かく深掘りしたロシア・ウクライナ戦争解説』
 ・2022年『本当のウクライナー 訪問35回以上、指導者たちと直接会ってわかったこと』
 ・2022年『魂の叫び セレンスキー大統領100の言葉』
 ・2022年『日本・ウクライナ交流史 1937年～1953年』等

入場無料・要申込み
 問い合わせ先
 (特)宝塚市国際交流協会(宝塚市立国際・文化センター内)
 TEL 0797-76-5917 水曜日を除く 10時～18時
 創立35周年
 主催：宝塚市・(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)

ナ語よりも、ロシア語のほうが堪能だったのです。今は、ウクライナ語がうまくなっています。プーチン大統領は、ロシア軍が短期間のうちに首都キーウを掌握し、ゼレンスキー政権を崩壊させ、親ロシアの傀儡政権を樹立することを狙っていました。

しかし、米国を中心とする欧米諸国のウクライナへの軍事支援が強化されるにつれ、キーウの掌握どころか時間の経過とともにロシア軍の劣勢が顕著になって、何とかウクライナ領土に踏みとどまっている状態です。だが、ロシア軍が東部や南部の一部地域を実行支配する状況はまだまだ続き、ウクライナ軍もロシア軍をウクライナ領土から追いやるには至っていません。一進一退の状況が今日でも続いています。

そして、時間の経過とともに欧米諸国のウクライナ支援にも陰りが見え始めて、米国のバイデン政権は、ウクライナ戦争を民主主義と権威主義の戦いと位置付け、ウクライナ支援を継続する重要性を強調していますが、米国民の間でそれへの支持は減少する一方で、秋に大統領選を迎えるバイデン大統領は難しい舵取りを余儀なくされています。

遠い国で起きていることは実は自分の身近なことにも影響しているんだということを知ってほしいですね。日々、気にしながら新聞やニュースに触れてほしいと思います。(広報委員会)

歴史、経済、政治の分野で、ロシア起源とされていたもので、ウクライナ発祥のものがたくさんあります。ウクライナをもっと知ることは、長引く戦火の背景を理解することにつながります。【キエフ】が【キーウ】とウクライナ語よみになったのも、岡部芳彦先生の提案です。

ウクライナ国民が悲惨な戦禍に耐え、結束する理由として、1932～33年の大飢饉「ホロドモール」があります。農業の集団化を進めるソビエト連邦が、外貨獲得のためにウクライナから穀物を搾取し、400万人以上が犠牲になりました。人工飢饉といわれ、「ホロコスト」と並ぶ20世紀の悲劇です。

ロシアの侵攻は今、世界の穀物市場までも危機に陥れています。ウクライナを35回以上訪ね、政府の要人と交流してきた岡部氏は、ゼレンスキー大統領ともなにかあって、一緒にデジカメに納まって、デジカメ君と呼ばれています。ゼレンスキー大統領は、芸能人時代はモスクワで活躍していたので、大統領就任後もロシアとの融和政策をとろうとしていた時期もありました。その時は、ウクライ

第2回 「宝塚歌劇とエリザベート」 イップ 常子氏

山々の紅葉が日ごとに別れを告げ、冬の到来を身近に感じる11月28日。オーストリア共和国、ウィーン市第九区【アルザーグルンド】と宝塚市とは姉妹提携都市です。そのオーストリアに在住して、オーストリア国家公認ガイド資格取得者のイップ常子氏が、当市に4度目の来日をしました。

18世紀、当時の強国、バイエルン大国ヴィッテルバッハ家、ミュンヘンで誕生したエリザベート(愛称：シー)がオーストリア、ハプスブルグ家のフランツ・ヨーゼフ一世と結婚し、数奇な運命をたどった生涯のお話です。

オーストリアの民族衣装をまとったイップ常子氏が、数々の映像と巧みな冗談を交え、流暢でなめらかなお話に45名の聴衆は当時の世界へ誘われ、時の過ぎるのを忘れるほどでした。(広報委員会)

令和5年度 TIFA第2回 国際理解講演会
宝塚歌劇とエリザベート
 講師 Ipp常子氏

宝塚歌劇団で数々上演されたエリザベート。今年には没後125年となり、16歳でハプスブルグ家に嫁ぎ、宮廷生活に馴染めず波乱万丈の生涯であった皇妃エリザベートについて語ります。

日時：11月28日(火)
 開場：13時30分
 開演：14時00分
 場所：宝塚市立国際・文化センター
 (宝塚南口駅 サンビオラ1番館3階)
 参加費：500円
 定員：50名(定員になり次第締切り)
 申込み・問合せ：宝塚市国際交流協会
 0797-76-5917
 水曜を除く10時から18時

Ipp常子氏 プロフィール
 広島生まれ、1974年結婚、3児の母となり、ウィーンに定住。2001年オーストリア公認国家ガイド資格取得。オーストリアと日本の懸け橋として、主に相互の文化交流イベントをはじめオーストリア国内、ドイツ、チェコ、ハンガリー、スロバキアなどオーストリア近隣国で日本人観光客の観光案内・通訳に従事。

主催：宝塚市・(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)

第3回 新聞社は今も“男性社会”か？ 西海 恵都子氏

令和5年度 TIFA 講演会
新聞社は今も“男性社会”か？
 講師：西海 恵都子氏

日時：2024年2月15日(木)
 開場：10時15分
 開演：10時30分
 場所：宝塚市立国際・文化センター
 (阪急今津線 宝塚南口駅 下車 サンビオラ1番館3階)

神戸新聞社初の女性取締役西海恵都子氏を迎え、均等法世代が進んだ37年をたどりながら、女性活躍に求められる視点について考えます。

西海 恵都子氏 プロフィール
 兵庫県明石市出身。関西学院大学社会学部卒業、1987年神戸新聞社入社 神戸新聞地域総研企画調査部長、編集局文化生活部長、報道部長、編集局長、執行役員事業局長などを経て、2022年2月取締役。入社以降の37年のうち、約5年を除き、編集現場で紙面づくりに携わる。

参加費：500円
 申込み・お問い合わせ：宝塚市国際交流協会
 0797-76-5917 (水曜を除く10時から18時)

創立35周年
 主催：宝塚市・(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)

「新聞社は今も“男性社会”か」という異色のテーマで開催した TIFA 講演会。講師は、神戸新聞社初の女性取締役・西海恵都子さんです。

関西学院大学社会学部を卒業後、1987年入社。「記者といえばモーレツに働く集団。ほぼ男性。妻は専業主婦という時代からの転換期だった」と当時を振り返ります。

4年目で初の女性キャップに抜擢。「自分が失敗したら『女はダメ』のレッテルを貼られてしまう、と肩に力が入っていた」との話し、会場の女性参加者が一様に頷く場面も。社は2018年に「ワーク・ライフ・バランスデザイン宣言」を行い、少しずつ社内は変わっていったとか。働き方も社会の考え方も大きく変わって、子どものいる女性たちがふつうに働き続ける職場になってきたそうです。

「男性社会が無くなったとは言いきれませんが」と笑う西海さん。均等法世代のリーダーとして道を切り拓いてこられた方の話はとても興味深く、小ホールは満席。山崎市長も熱心に聴き入っておられました。(広報委員会)

TIFAで外国語を学びませんか

外国語コミュニケーション教室 2024年度

受講生募集

TIFA外国語教室 通年コース

英語

講師：堀内 ニコール 先生

基礎：初心者（学習経験者）
月曜日 13:00~14:15

続基礎：初心者（基礎コース修了者）
月曜日 14:30~15:45

ビジネス英語：経験者
土曜日 17:30~18:45

インドネシア語

講師：ウミ ファトナー 先生

初・中級：学習経験者
月曜日 10:30~11:45

入門：初心者
月曜日 17:30~18:45

英語

講師：ジョージ ブラクストン 先生

初級：簡単な日常会話ができる方
月曜日 10:30~11:45

中級：日常会話ができる方
2クラス
I) 月曜日 13:00~14:15
II) 月曜日 14:30~15:45

タイ語

講師：伊丹 ブラッター 先生

初・中級：学習経験者
火曜日 10:45~12:00

入門：初心者
土曜日 17:30~18:45

フランス語

講師：ポルドリー ジャン フィリップ 先生

初級：学習経験者
月曜日 17:30~18:45

中級：学習経験者
月曜日 16:00~17:15

中国語

講師：楊 慶 (ヤン チン) 先生

初・中級：学習経験者
火曜日 13:00~14:00

入門：初心者
木曜日 17:30~18:45

韓国語

講師：金 美子 (キム ミジャ) 先生

初・中級：学習経験者
火曜日 14:15~15:15

入門：初心者
木曜日 17:30~18:45

☆☆ 募集要項は裏面を ☆☆

主催：(特)宝塚市国際交流協会 (TIFA) 後援：宝塚市

KIDS ENGLISH

小学3~4年生を対象にキッズ英語を開講します。
ネイティブの先生と一緒に英語を楽しみながら学びましょう！

2024年5/7(火)~7/23(火)16:00~17:00の10回コース

時間	レッスン日【毎週火曜日：全10回 60分/回】
16:00-17:00	5/7 5/14 6/4 6/11 6/18 6/25 7/2 7/9 7/16 7/23

講師：堀内ニコール さん
オーストラリア出身、日本在住

場所：宝塚市立国際文化センター
定員：小学3,4年生12名(先着順)
受講料：14,000円(全10回分、資料代含む)
申込・問合せ：(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)
宝塚市南口2丁目14番地3号1階3F (宝塚市立国際文化センター内)

TEL:0797-76-5917 (水曜を除く10時~18時)
URL: https://www.tifa.be

主催：(特)宝塚市国際交流協会 (TIFA)

たのしい英会話 初級コース

日常生活での会話、旅行での会話など
実際に使える英語を勉強して役立ててみませんか？
皆さんの日常生活を題材に使える英会話を楽しみましょう！

2023年5/13(土)~7/15(土)までの10回コース

時間	レッスン日【毎週土曜日：全10回】
10:30-11:45	5/13 5/20 5/27 6/3 6/10 6/17 6/24 7/1 7/8 7/15

講師：南林ヴィヴェン さん
イギリス出身、日本在住

場所：宝塚市立国際文化センター
定員：14名(先着順) ※定員になり次第締め切ります
受講料：17,000円(全10回分、資料代含む)
申込・問合せ：(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)
宝塚市南口2丁目14番地3号1階3F (宝塚市立国際文化センター内)

TEL:0797-76-5917 (水曜を除く10時~18時)
公式サイト: https://www.tifa.be

主催：(特)宝塚市国際交流協会 (TIFA)

外国人コミュニケーション教室

多文化共生社会
母語だけではもったいない
(主催)TIFA (後援)宝塚市

受講生募集

たのしいベトナム語 基礎コース

日常生活での会話、旅行での会話など、実際に使えるベトナム語を勉強して役立ててみませんか？
皆さんの日常生活を題材に使えるベトナム語を楽しみましょう！

2023年7/29(土)~9/23(土)10:30~11:45

講師：小宮 幸子 (コノミ ユキコ) さん

場所：宝塚市立国際文化センター
定員：14名(先着順) ※定員になり次第締め切ります
受講料：13,600円(全10回分、資料代含む)

申込・問合せ：(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)
宝塚市南口2丁目14番地3号1階3F (宝塚市立国際文化センター内)

TEL:0797-76-5917 (水曜を除く10時~18時)
公式サイト: https://www.tifa.be

主催：(特)宝塚市国際交流協会 (TIFA)

受講生募集

たのしいスペイン語 初級コース

日常生活での会話、旅行での会話など、実際に使えるスペイン語を勉強して役立ててみませんか？
皆さんの日常生活を題材に使えるスペイン語を楽しみましょう！

2024年1/6(土)~3/16(土)まで10回コース
10:30~11:45

講師：小宮 幸子 (コノミ ユキコ) さん

場所：宝塚市立国際文化センター
定員：14名(先着順) ※定員になり次第締め切ります
受講料：17,000円(全10回分、資料代含む)

申込・問合せ：(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)
宝塚市南口2丁目14番地3号1階3F (宝塚市立国際文化センター内)

TEL:0797-76-5917 (水曜を除く10時~18時)
公式サイト: https://www.tifa.be

主催：(特)宝塚市国際交流協会 (TIFA)

受講生募集

たのしいドイツ語 初級コース

日常生活での会話、旅行での会話など、実際に使えるドイツ語を勉強して役立ててみませんか？
皆さんの日常生活を題材に使えるドイツ語を楽しみましょう！

2024年5/11(土)~7/13(土)10:30~11:45

講師：小宮 幸子 (コノミ ユキコ) さん

場所：宝塚市立国際文化センター
定員：14名(先着順) ※定員になり次第締め切ります
受講料：17,000円(全10回分、資料代含む)

申込・問合せ：(特)宝塚市国際交流協会(TIFA)
宝塚市南口2丁目14番地3号1階3F (宝塚市立国際文化センター内)

TEL:0797-76-5917 (水曜を除く10時~18時)
公式サイト: https://www.tifa.be

主催：(特)宝塚市国際交流協会 (TIFA)

青きダリアの彩色 ~若手芸術家作品展~

2024年3月21日(木)~26日(火)、宝塚市内を中心に活躍されている若手芸術家4人のジャンルを超えた作品の展覧会が(特)宝塚市国際交流協会主催で行われた。

入り口近くに日本画の「白妙」が柔らかく目に入った。市展で「市展賞」「若獅子賞」を受賞された倉橋咲妃氏の大作だ。自画像を他者からの視点で描かれたようだ。歩を奥に進めると岡ちひろ氏のデザイン画「連繫」という社会との繋がりを表現した現代アートに出会う。原画とグラフィックデザインとの対比が興味ある試みであった。

反対側の壁には写真芸術の展開で市展「優秀賞」を受賞された足立宗真氏の「耽美」の大鳥は力強さと緊張感のある作品だ。これとは真逆の街や陸橋などの無機質な風景作品との取り合わせが面白かった。最後に金山直希氏の北海道の雪原や山岳の風景を被写体に自然の美を瞬で捉えた作品で、光と樹と雪と空との予期しない響き合いが美しくとても感動的であった。春のひと時、宝塚市の花でもあるダリアの如く彩色豊かな空間を体験した。

これを機会に出品者同士の繋がりを深め、宝塚市の芸術・文化の発展に寄与することを大いに期待する。

(NL 編集部会取材)



倉橋咲妃(日本画)



金山直希(写真)



岡ちひろ(デザイン)



足立宗真(写真)

TIFA と国際交流推進議員連盟意見交換会

2024年1月23日、国際交流協会の皆さんと宝塚市議会議員20名が所属する国際交流推進議員連盟との意見交換会が開催されました。改選後初めての意見交換会でもあり、新人議員も多い議会構成ということから、国際交流協会(TIFA)の目的、設立の経過など活動内容の説明をあらためてお聞きする機会としていただきました。

国際交流協会の皆さんが、国際交流や異文化の理解促進そして地域の国際化に、常日頃より熱意を持って献身的に取り組まれていることをお聞きして、参加した議員一同非常に感銘を受けた次第です。その後の懇親会も、活発な意見交換の場となり、とても有意義な機会となりました。大変お世話になり、ありがとうございました。

これからも国際交流推進議員連盟として国際交流協会の皆さんの活動を積極的に応援させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

参加者(市議会議員 13名) (TIFA 理事 10名)

国際交流推進議員連盟 代表 藤岡和枝

民間大使 今年の動き

3月9日～10日に開催されたTIFAのNGO活動紹介展に初めて参加させていただきました。普段私たち民間大使は個人で活動をしてきましたが、今回はベトナムのコンさんと一緒に民間大使としての活動を介绍することになりました。壁には民間大使それぞれの活動の写真を張り、またブースの前には実物の韓国とベトナムの衣装や物を飾っておきました！沢山の来場者と韓国、ベトナムについて色々なお話も出来てとても楽しかったです。今回は初の試みで準備不足もありましたが、来年からはやり方をもっと工夫するとともに、民間大使全員によるバラエティーに富むブースを期待しています。



NGO展にて

- 今年度の主な活動、
- 10月14日 韓国出身の金采映さんがすぎの子クラブ
 - 11月23日 コロンビア出身コンスタンザさんがシニアカレッジ (民間大使 金采映)

外国人のためのオリエンテーション

外国人のためのオリエンテーション
交通安全教室

参加費無料
お金はかかりません
予約をしてください

日本の交通ルールは、みなさんの国のルールとちがうところがあります。今回は、宝塚警察署から交通安全課の人たちが来て、最新の交通ルールを教えてください。

警察官による説明
交通安全DVD鑑賞
自転車教室

日と時間: 2024年2月8日 木曜日
午後1時30分からはじまります

集まる場所: 宝塚市立国際文化センター

行く人: 外国人と家族

申し込み: 国際交流協会の事務所へ
午前10時から午後6時(水曜日はお休みです)

フードシェアリング
来た人には食品を配ります

宝塚市国際交流協会
住所: 宝塚市南口2丁目14番1-3 サンビオラ1番館3階
電話: 0797-76-5917

交通ルールは、みなさんの国のルールとちがうところがあります。今回は、宝塚警察署から交通安全課の人たちが来て、最新の交通ルールを教えてくださいました。令和6年2月8日、国際・文化センター ギャラリーにおいて、宝塚警察署より、交通安全課及び警備課から警部補及び巡查長、巡查2名合計5名が来館。

交通安全DVD鑑賞に続いて、署員による自転車の正しい乗り方、自転車は軽車両であるので、車両としての交通ルールの遵守などの説明がありました。その後、実際に持ち込んで頂いた自転車を使得の具体的でわかり易い口頭での説明があり、外国人参加者にもより解りやすかった。

その後、質疑応答では、署員の易しい日本語での対応に外国人参加者からも種々の質問が出て、参加した日本人にも参考になりました。

参加者19名 市民15名【うち外国人8名(ベトナム1名 中国3名 フィリピン2名 台湾1名 カナダ1名)】、スタッフは生活相談委員会4名でした。(生活相談委員会)

「なないろルーツ」って何をするとこころ

多くの方は、『なないろルーツ』(TIFA 独自事業)を『外国にルーツを持つ子ども達が月に1回楽しく遊ぶ事を目的とした事業』と理解しておられるのではないかと思います。ですが実はそれだけを目的とした事業ではありません。その子どもたちを育てている保護者や、まもなくそうなるであろう妊娠中のプレママやプレパパたちも含めます。妊婦さんは、妊娠が分かった時から小さな命を意識しながら期待や不安と一緒に日々を過ごすので、既に『なないろルーツ』の仲間です。そうした人たちの『それぞれのアイデンティティを大切に思う場になることを目的とした事業』です。



『なないろ』の日の大人は子どもと一緒に遊ぶのも良いですが、大人同士のおしゃべりを楽しんだり情報交換したり、ただ、ぼーっとしているのもあります。集う人たちが、ここに来れば何となく自分や我が子を大切にできる空気がある。大人の自分も何だか安心な感じがする。その感覚を楽しみながら育てるのは、職員さんや遊びのゲスト、ボランティア、そして参加する当事者の皆さんです。今年度で3周年を迎える『なないろルーツ』には、既に様々な国出身の保護者の方が来られています。当然母語も違えば文化も違います。出合った時お互いの違いを受け入れたり、何となく違うなと感じたりする。違うことを伝え合うこともある。それでいいのです。ここで安心していただけるご機嫌な大人を見た子どもは安心できる幸せを感じ取っています。国際交流の未来はそのような子どもたちの中に育まれていくと期待しています。(なないろルーツアドバイザー 秦摩耶)

STワールド

外国にルーツを持つ子どもの学習支援を通じて感じる国際交流

外国にルーツを持つ子どもは、今や特別な存在ではない。宝塚市にも約40人の児童・学生が、小中学校に通っている。STワールドは、外国にルーツを持つ子どもに、日本語学習や学校の勉強支援を行う宝塚市の事業だ。日本に来たばかりで、ひらがな・カタカナを学びに来る子ども、日本語に困らないが、学習支援が必要な子ども等、就学前から中学生まで、背景も様々だ。

一人一人への学習サポートだけではなく、子どもと一緒に学び、関わり合うように、漢字やオノマトペのクイズ、都道府県当てゲームで楽しんだり、大学生ボランティアとけん玉にチャレンジしたり、子どもが興味を持って参加するプログラムを実施している。

子どもも、私たちに、母国について教えてくれる。新年の事、食事、挨拶、流行りの本等、目をキラキラ輝かせて話す。月2回のSTワールドに参加する事で、学習の遅れを解決するのは難しい。外国にルーツを持つ子どもが多い日本の他地域と比べると、サポートの差もあり、歯がゆさもある。でも、子どもは母国について教えてくれる素敵な国際人だ。大学生ボランティアや私には、発見と学びがある。



「他国の人と交流し、互いの国についてよく知ること」が国際交流と定義するならば、子どもが母国について話すこと、それは、地域に合った、地域に根付く国際交流の1つの形と言える。子どもを通じて、国際交流の場を地域に提供する、そんなSTワールドになれば、新しい未来の国際交流の形を、1つ作ることが出来る。そんな期待を持っている。(日本語サポーター 安原 菜津子)

NGO 活動紹介展 3月9・10日



宝塚ワイズメンズクラブ



日本ベネズエラ友の会 宝塚



フィリピン AKAY プロジェクトをともに創る会



学生団体 同志社 SALT (フィリピン)

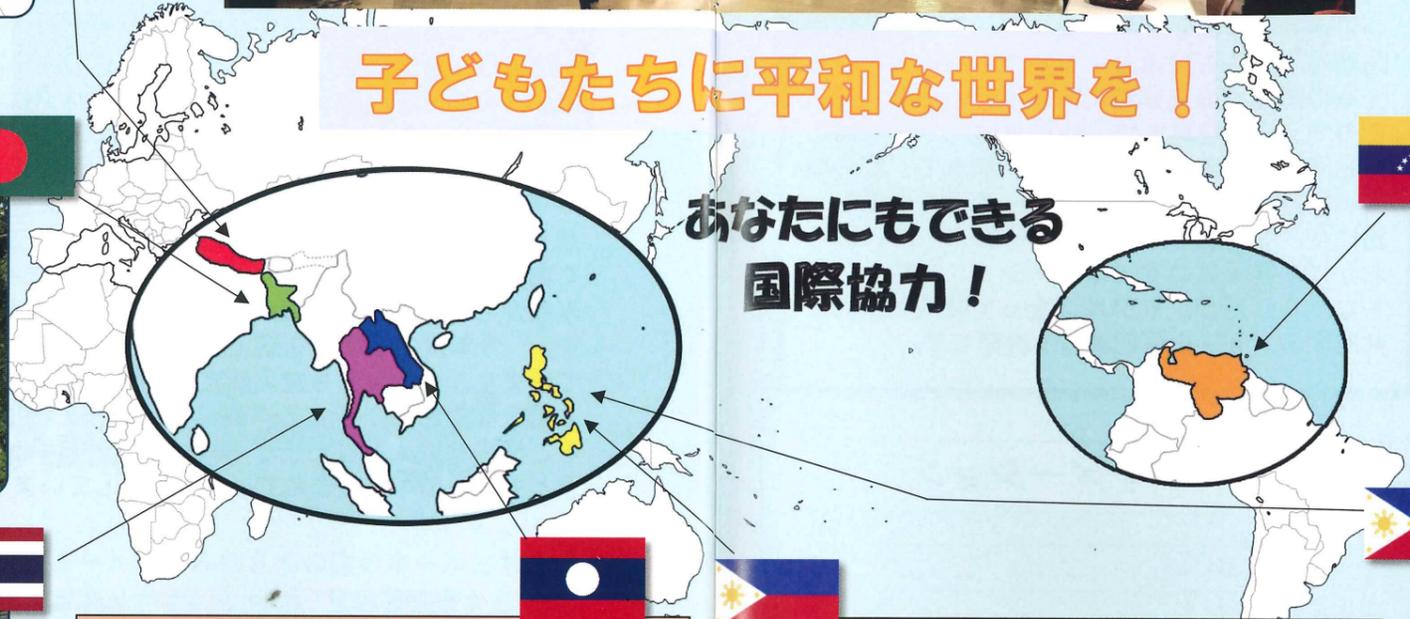


学生団体 Infinite Connection (ラオス)



子どもたちに平和な世界を！

あなたにもできる 国際協力！



ネパール教育開発機構



JAC 日本はアジアの国々と共に (バングラデシュ)



暁グリーンクラブ (タイ)



お楽しみタイム

バンブーフルート演奏

9日(土) 13時、14時
小ホール及びギャラリー
演奏 ラム・マハラジャン (ネパール)



子供たちによるハンドベル演奏

10日(日) 13時半～
小ホール 演奏 ポップン・リンガース



外国人支援
フリーマーケット

生活相談委員会による
9日 11時～16時 会議室



ブースを巡ってスタンプを集めよう
スタンプラリー
景品付き
クイズに答えて景品をもらってください！

